

令和元年度 第1回飛騨市総合政策審議会 議事録

- 【日 時】 令和元年 7 月 10 日（水） 13 時 00 分～16 時 10 分
- 【場 所】 飛騨市役所 西庁舎 3 階 大会議室
- 【出席委員】 全委員 15 名中 出席委員 11 名
- 【執行部等】 都竹市長 沖畑教育長 十松会計管理者 泉原総務部長 柚原市民福祉部長
大坪環境水道部長 青垣農林部長 清水商工観光部長 谷尻教育委員会事務局長
佐藤病院管理室長 中畑消防長 田之下宮川振興事務所長 森神岡振興事務所長
洞口財政課長 二木林業振興課長、横山建設課長 古田河合振興事務所次長
(17 名)
- 【事務局】 御手洗理事兼企画部長 柚原総合政策課長 土田係長 井口主査 砂田主任（5 名）
- 【傍 聴 者】 3 名（記者含む）
- 【会 次 第】 1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶
4. 会長挨拶
5. 協議事項
① 平成 28 年度からの主要施策の成果について …… 別紙①
② 平成 30 年度地方創生関連交付金事業の効果検証について …… 別紙②
③ 飛騨市総合政策指針（骨子案）について …… 別紙③
6. その他
7. 閉会

【議事内容】

1. 開会

司会【御手洗理事兼企画部長】

今年度第 1 回目の総合政策審議会を開会する。

飛騨市総合政策審議会設置条例第 6 条の規定により、定足数に達しており審議会成立。

2. 委嘱状交付

新しく就任された 4 名に委嘱状交付を行う。

3. 市長挨拶【都竹市長】

今年度第 1 回の総合政策審議会であり、ご多忙な中ご参集賜り感謝申し上げます。

この審議会は 3 年目となり、市の審議会の最上位と位置づけている。毎回、有益なご意見を多くいた

だいており、実のある審議会となっている。

年間3回実施しており、第1回目は、昨年度の取り組みを含めこれまでの市政の流れを報告し、今後の取り組むべきこと等についてご意見を賜り、秋からの政策協議に活かしていくもの。その意味では、第1回目は最も自由度の高い回。ご意見を積極的にお出しいただき、今後の市政に反映していきたい。また、市政運営指針の策定を始めている。総合政策指針と名付けており、現行の総合計画に替わるもので、向こう5年間の大きな方向性を示すために作るもの。今現在の私どもの考え方をお話させていただくので、忌憚のないご意見をいただきたい。

4. 会長挨拶【会長】

令和元年度第1回の総合政策審議会ということで、お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。今年度に入り飛騨市に3回来ている。ふるさと種蔵村の副村長を拝命しており、先月末にどんな種蔵にしたいかを語る種蔵村議会を開催し、とても良い会議の場であった。

今回は、総合政策審議会に合わせて前日入りし、学生とともに昨年の7月豪雨時の避難状況に関する調査を行っている。県内全域の避難状況を調査研究しているが、飛騨市は他の地域と比べ圧倒的に避難率が高い。市の危機管理課や地元の区長などにインタビューをしたところ、ベースは区の組織だということがわかってきた。市民が普段から地域と関わり、その延長線上に避難が位置づいており、飛騨市民の民力が高い一面ではないかと思っている。

そのような中で、通常こういった審議会は総合計画を策定する際に臨時的に1年間で立ち上げ、議論して終了となるが、飛騨市はその審議会が常時開催されている。これは他にない事例であり、前年度政策の振り返りや次年度政策を皆さんの意見のもとに考えるということは極めて珍しい。だからこそ、委員の皆様には、現場でお気づきのところなど、忌憚のない意見をいただきたい。

5. 協議事項

司会【会長】

① 平成28年度からの主要施策の成果について《別紙①》

【土田係長より説明】

【会長】説明された内容について質疑を求める。

【委員】今年度の政策であるが、終活支援事業の進捗をお伺いしたい。

【柚原部長】10月1日から終活支援センターという名称で飛騨市社会福祉協議会に委託し、開設を予定している。生前の相談と亡くなられたあとの手続きの相談ということで、関係する事業者などにつなぐ、あるいは代行するような部分もあるかと思うが、そういった窓口を開設する。現在鋭意打ち合わせを進めているところ。

また、市役所では、死亡後の手続きを一つの窓口で行えるワンストップ窓口を設置した。庁舎内を回らなくても済むよう手続きの負担軽減を図っている。

【委員】小さなまちづくり補助金について、平成28年度から始められているが、募集の仕方を伺いたい。

昨年度、審査員を務め初めてこの補助制度を知った。審査基準が難しく、結局は応募す

れば全て通るという疑問も持った。また、多数の応募があった場合どうするのか。素晴らしい事業であると認識しているが、全体の流れを教えてください。

【土田係長】募集は、区長回覧や Facebook などの SNS、ホームページ等で周知している。委員にお願いしている審査は 2 次審査であり、1 次審査では事務局が書類により、内容が当補助の目的に沿っているか、例えば物品を購入するだけになっていないかなどの審査を行い、通過したものを委員の皆様へ審査いただくものである。

【委員】審査を依頼されてこの取り組みを初めて知ったため、周知を図って欲しい。

【都竹市長】この事業の審査員の戸惑いは最初からあったと認識している。最初は、個人市民税の 1 % 1,000 万を市民に還元するという趣旨でやったが、その額まで到達しないということがわかってきたことから、以降予算を下けている。

委員の審査の戸惑いがどこにあったかという点、通常の補助金の審査は、悪いところをチェックしてマイナス評価をするものだが、この事業はプラスの審査をしてもらう意図がある。逆に 1 次審査を通過したものは、ほぼ 2 次審査も通る仕組みである。まちづくりはチャレンジが重要であり、意欲を伸ばすことを重視している。この趣旨を審査員の皆さんへよく理解いただいた上で、審査いただけるよう今後気をつけていきたい。

【委員】会長から、飛騨市の昨年度の豪雨災害時の避難率が高かったとおっしゃられたが、具体的な数値を教えてください。

【土田係長】手持ちに資料がないため、後ほど報告する。

【会長】うろ覚えだが、指定避難所への避難率は 13% で、他は 5 % 程度。指定避難所以外でも一時避難所や知人の家、垂直避難を含めると、飛騨市は 60% くらいで他の地域は 20% くらい。それくらい突出している。県と岐阜大学で共同研究しており、まもなく報告されるので、そちらを見ていただければ。

【委員】資料①の産業の人材確保対策について 3 点伺う。1 点目は、外国人材の受入を行っている企業の数や外国人材の人数を教えてください。2 点目は、高校生へ向けたホームページや就職情報誌などによる周知は、実際に高校生に対してどのくらい効果があるのか、周知方法とどれくらい浸透しているのか教えてください。3 点目は、昨年度、人材確保に向けた企業の情報発信力向上のセミナーを実施されているが、その後の企業に対するフォローは。

【清水部長】1 点目は、現在 11 事業所に 40 名の外国人が就労されており、うち外国人技能実習生は 31 人。引き続き外国人雇用の補助メニューを充実させているところ。特に、空き家の活用や交流会、技能実習生の雇用面接の旅費など充実させ取り組んでいる。2 点目の就職情報誌は、現状はアナログ冊子での情報発信である。インターネットは、高校生が見に行くことは少ないと思うが、今後も力を入れていく。3 点目のセミナーは継続して取り組んでおり、特に意識の低い事業所への支援に力を入れている。

【委員】先日、「飛騨 City 人財会議」という各高校の就職進路の担当と企業との会議の場があり、今の高校生はホームページをあまり見ないと先生から聞いた。情報を得るのは同級生や先生などからであり、ホームページは順位が 3、4 番と聞いている。情報発信に改善の

余地がまだあるのではないか。

② 平成 30 年度地方創生関連交付金事業の効果検証について《別紙②》

【土田係長より説明】

【会 長】説明された内容について質疑を求める。

【委 員】昨年度、移住者 100 人とあるが、具体的な年代を教えてほしい。

【土田係長】30 代が一番多く、次に 40 代。移住元は、県内が多く、次は関東地方。

【会 長】30 代の全体の割合は。

【土田係長】100 人中 42 人で 42%。

③ 飛騨市総合政策指針（骨子案）について《別紙③》

【土田係長より飛騨市総合政策指針の策定について前段部分を説明】

【都竹市長】総合政策指針の骨子案の考え方を説明する。この資料は、今後も検討を重ね変更していくため、今日付け版としている。

全体的な柱立ては現在の市政の方向性と変えていない。これまでも現状の問題意識等に立脚して柱立てしてきており、その意味では、大きな考え方や方向性は現在の市政の流れを維持する。「元気であんな誇りの持てるふるさと飛騨市」の柱立てをベースとし、まち・ひと・しごと創生総合戦略を兼ねるものであることから、「元気」が「しごと」、「あんな」が「まち」、「誇り」が「ひと」のような対応となる。

人口減少の流れは、論理的に考えて歯止めがかかることはない。その中で何が起こるかわからない時代に入っているということを踏まえて、初めて今後の政策が出てくると考えている。

まずは「元気な飛騨市」の分野。一つ目の「◆誰もが働きやすく、活躍できる元気なまち」では、飛騨市では既に人口減少がかなり進んでいるが、人口減少により働く人が減り、稼ぐ人、消費する人が減る。したがって、既に市内で長く現れている現象だが、地域の中での商売はマイナスになる。これらを踏まえた政策はどうあるべきかと考えた時に、働ける人は働き尽くしている状態ではあるものの、20 代～30 代の女性、60 代後半以降の方々は、なお掘り起こしの余地が残っている。こうした方々や現役世代、外国人や障がいのある方など、およそあらゆる全ての方々の自分にあった働き方の実現を目指していく。

2 つ目の「◆変革への挑戦を続け、新しい価値を創造するたくましいまち」では、人口減少時代において、外に打って出ないと売上が減る中で、他と違い特色があるサービス・商品が出来なければジリ貧になることは目に見えている。常に新しいことをどれだけ考えられるか、変化するという挑戦をどれだけ続けられるかが重要という考えの中で、変革への挑戦を続け、新しい価値を創造するということを皆でやっていけるまちを目指したい。

3 つ目は「◆様々な人や地域との交流から所得を生み出すまち」で、外にモノを売るに

も、外から来てお金を落としてもらうにも、交流からしか始まらないという考えである。人との交流の中でビジネスチャンスを見出すことも必要であり、また、観光客については思い出に残る観光が必要だということで、色んな交流からお金を生み出すということをテーマとした。

この3つの柱に対応する取組みとして、外国人を含めたあらゆる方々が自分にあった働き方ができるまちを目指したい。また、新しい事業商品、サービスを創造する事業者を応援し、新しいサービス・事業を興すという人たちを応援したい。また、飛騨市にしかない地域資源というものをお金に変えるという価値創造についてもしっかり取り組みたい。交流の部分では観光地づくりとあわせ、都市部への訴求力の高い差別化を重視した売り込み方をしていく。また、観光以外にも来てもらい地域づくりを手伝ってもらう関係人口を増やすなどを大きな柱として取り組みたい。

「あんきな飛騨市」の分野では、どんな時代でも普遍的にあるものということが基本だが、その中でも飛騨市らしさを追求した。

まず1つ目の「◆誰一人取り残されず大切にされる思いやりのあるまち」だが、誰一人取り残さないというのは、SDGs という持続可能な開発目標の一つのテーマ。飛騨市民の誰一人取り残さないということの一つ大きな目標にしたい。少数の困っている方々を大切に市政にしたいと考えており、一人ひとりを大切にすることが思いやりのあるまちに繋がる。

2つ目の「◆お互いを家族のように思い、支えあえるまち」は、コミュニティの在り方を追及すると、理想の姿は家族のような地域であるという考えがあり、市内にも実際にそうした地域がある。人口減少時代では、市民全体が家族のような関係で支えあえることを目標に掲げた。

更に、「◆生涯現役で自分らしく暮らせる健やかなまち」という点においては、健康づくり、体力づくりとあわせ、自分のペースで活躍できる生涯学習的な要素も盛り込み、身体の面も含めた自分らしく暮らせる健やかなまちを目指すもの。

これらに対応する取組みは、医療介護の体制づくり、終活を含めた最後まで安心して暮らせる地域づくり、また、弱い立場の方、障がいのある方、ひとり親家庭、ひきこもりの方がありのままに大事にされる関係づくり、当然、公共サービスも裏打ちとしてやっていく。コミュニティでは家族のように支えあうコミュニティ、これが先ほど会長が申されたように防災体制を整える上で重要であり、子育て環境づくりにも繋がる。また、健康づくり体力づくり、自分のペースで活躍できる環境づくりというのを政策として取り組んでいきたい。

「誇りの持てる飛騨市」の分野には、教育と文化、芸術、まちづくりが入ってくる。

1つ目は、「◆子ども達の生きる力を地域一体で育む学び豊かなまち」。子ども達の生きる力、つまり課題解決能力、時代の中で新しいことを生み出していく能力、人と交流できる能力というように理解しているが、未知の課題が出てくる時代の中で、そうした力を身につけた逞しく生き抜く子ども達を地域全体で育てたいという思いを込めている。

2つ目は、「◆一人ひとりの頑張りを応援し互いに尊敬しあえるまち」ということで、こうして市政を運営していると素晴らしい活動をされている方が多数みえることがわかる。地道に自分の好きな活動を追求されている方や、まちづくりの中で自分ができることを頑張ってみえる方などが、お互いに尊敬しあえるまちを作りたいという思いを持っており、マイナスを批判するのではなく、それぞれの頑張りに声を掛け合い、評価しあえるまちを目指す姿として掲げた。これまでの姿勢として「融和」としていたが、これが出来れば自然と融和していき、対立は無くなる。そうしたベースを作っていきたい。

3つ目の「◆豊かな環境と個性ある地域資源を大切に誇り高いまち」は、豊かな自然環境、歴史、文化、科学などの地域資源は、そのまま誇りにつながっている。これらを大事にし、自慢できる形に高めていくことをまちづくりとしてやっていきたい。

取り組みとしては、子ども達を地域で育むということで、まさに飛騨市学園構想をイメージしている。2番目は、生涯学習、まちづくり活動をお互いが知り合い評価しあえることを支えたい。地域文化資源の点では、歴史や湿原などの自然資源、高冷地としてスポーツに適した環境をまちづくりに生かす。また、森や水についても保護をしっかりとやっていく。

いずれにしても、大きな方向性や考え方は、現在の市政の考え方を反映させたものだが、人口減少時代にあって未知の課題が噴出し、地域の需要が減っていく、あるいはグローバル化の中で、市民の結束力やコミュニティの力がなお求められる時代を正面から受け止めた上で、もう一度意味づけをして総合政策指針としてお示しする。

これは、5年間の計画を立て粛々と実施していくものではないと考えており、現状や皆様からの意見により積極的に拡充し取り組んでいくというのがアクションプランである。三嶋和ろうそくのように、軸に巻いた和紙と綿の上にロウを塗り重ねて太いろうそくにしていくようなイメージ。ろうそくを作って5年間灯し続けるというものではない。資料左端の「目指す将来像」は、これらの思いを包含し何か心をつにできるキャッチフレーズが出来ればよい。今は仮に記載しているが最終的には変わってもいい。ぜひこの審議会のご議論を踏まえ一緒に考えていきたい。

【会長】 説明された内容について質疑を求める。

【委員】 就労について。国が「がん患者」の就労支援の取り組みを始めた。若年層の患者が増えており、長く治療をしていかなければならず、治療をしながら仕事をしなければならぬ。がん患者の3人に1人が、休みが取れない、居づらいなどで仕事を断念するという統計結果もある聞いた。実際に情報を取っていないが、治療しながら仕事を続けられる生きがいという面でも何か支援があると、誰もが働きやすい環境にもつながるのではないか。

【都竹市長】 今まであまり問題意識を持っていなかったが、がんが進んだ状況でもギリギリまで働く方もいれば、ある程度働ける状態になったが病気を機に仕事を辞めるなど、様々な方がみえることは承知している。市役所は病気休暇制度が整っている方だと思うが、小規模企業などでは整っていない場合もあり、それが辞める原因になっている感じを受けた。

多くの方が様々な病気になる中で、治療をしながら働きたい場所で働き続けるサポートについて、柱立てに加えることは大いに意味がある。

- 【委員】4月からの働き改革の流れの中で、厚労省がガン患者の働けるシステムを始めたところ。
- 【会長】病気をすると無理して働くことが現状。無理せずに仕事が継続できるとよい。
- 【都竹市長】組織側、会社側の理解が不可欠である。
- 【委員】企業側の体制が重要のため、まずは大企業から進められ、徐々に中小企業に移行するのが現実的だと思う。
- 【委員】事業者側も、人の補充や賃金の保証など難しいと思うが、体制が少しでも出来ていれば早い段階で何かできるのでは。
- 【都竹市長】非常に重要な視点である。

- 【会長】ここで、10分休憩を取る。

— 休憩 —

- 【会長】会議を再開する。先ほどの質問について事務局より回答をいただく。
- 【泉原部長】先ほどの避難率について、県下全体では2%だが、飛騨市は12.38%。
- 【会長】ここからは、委員の皆様から市に取り組んでほしいこと、課題など、どんな些細なことでも、お一人3分ほどご意見をいただきたい。
- 【委員 A】特定空家にあたらないうも住んでいない家がある。所有者が不明であり町内として対応に困っている。雪下ろしなど放っておくわけにはいかず、町内で協力して実施しており、ありがたいが、怪我があった場合の対応を考えると難しい。また、管理が不十分で、勝手に手を加えるわけにもいかず対応に困ることがある。これは他の地区でもあると思う。2点目は、人口減少と高齢化により行政区の役を担う人がいないことから、合区を検討しているが、他の区と相談するとあまり良い感触ではない。合区について検討するための働きかけを行政からできないだろうか。また、現在、飛騨市には、区がないところがある。避難のことなど、区がないと話が行きわたらない等問題があるのでは。どこも区があつて、同じような取り組みができると、もっと良いつながりができるのではないか。
- 【委員 B】予防接種については、拒否される方にどうやって意識を変えてもらうかが一つの問題。一方で、ヒブ肺炎の予防接種の定期化により患者が激減しており効果を実感している。任意接種については、近隣市と比べて助成が多いが、中には費用が高額なものもあり、接種による重症化の度合いは歴然としていることから、助成のあり方についてさらに充実をお願いしたい。あわせて、子育てに力を入れていることをアピールできる体制があればよい。
- 2点目で、飛騨市官民全体で働きやすい環境づくりを進めていただきたいと考えている。

労働者 50 人以上の事業所は、産業医を選任し配置されているが、50 人未満の事業所は、その義務が無い。飛騨産業保健センターという、50 人未満の事業所に対し無料で支援をするセンターがある。健康管理や過重労働等でお困りのことがあれば、50 人未満の事業所の相談窓口を市に開設していただき、産業保健センターに繋げていただければ。

3 点目で、観光を含めてだが、J R 高山本線は北陸方面から来られる方に対して、高山市の手前で飛騨市に降りていただける一つのルートであり、陳情はされていると思うが、便数を増やすことはできないだろうか。

【委員 C】最近、神岡町内の公園の遊具が新しくなり、ありがたいと思っているが、トイレが古く、和式であることやオムツを替えるところがないなどの理由から、富山の公園などへ遊びに行く人が多い。きれいなトイレが整備されると使いやすいのではと感じる。

2 点目は、ゴミに関してだが、子育て世帯ではオムツのゴミがかさばるため、ゴミ袋が多く必要となる。高山市では、子育てや介護の世帯に対するゴミ袋の支援制度があると聞いた。飛騨市のゴミ袋の価格が高いこともあるが、そういった支援制度があると良い。最後に、小学校の水分補給について、神岡小学校だけなのか不明だが、登下校の水分補給のため、水筒ではなくペットボトルに自宅から水道水を入れ、帰る際に学校で新しい水に入れ替えるよう決められているが、ペットボトルは洗いづらく乾きにくいので、水筒の方が衛生的ではないかという意見が保護者の中で多い。中の水についてはお茶を持たせたいという親もいれば水でよいという親もいる。

【沖畑教育長】ペットボトルでの水分補給は、おそらく荷物が重くならないような配慮だと思うが、洗いづらいことは不便であるし、どちらでも選べるよう学校側と相談する。お茶はどうかと聞かれることもあるが、お茶だと煮沸するため衛生的に良いと思われがちだが、実際は塩素が無くなるため早く痛む。また、お茶だと子ども達が心情的にもったいなくて時間が経っても捨てられず飲んでしまう可能性があり衛生上良くない。帰る際には必ず中身を入れ替えるよう徹底しており、そういったことから水としているのではないかとと思うが、いずれにしても、学校から保護者の皆様と話し合うようにしていく。

【委員 B】学校に忘れると次の日にそのまま飲まれると危険である。

【会長】なぜペットボトルなのか、なぜ水なのかという理由が保護者に伝わるとよいのでは。

【沖畑教育長】保護者の皆様に理由をお伝えし、ご理解いただけるようにしていきたい。

【委員 D】数年前に消防無線と防災行政無線がデジタル化されたが、運用状況はどうか。不確実な情報だが、移動系行政無線は不感地帯が多いと聞いている。また、行政無線は取り扱いが難しく、職員が不安無く取り扱いできるか心配。不感地帯がどのくらいあるのか、解消するためにどのようなことを考えているのか、職員の取り扱いに不安が無いのかをお伺いしたい。

【委員 E】高卒より短大や専門学校等へ進学される方が圧倒的に多い。この方々に対し、市としてある程度把握し地元就職についてフォローしていくべきではないか。これからは、ある程度行政も積極的に関わっていただければ。

中学生の職場体験は、地元の企業を紹介するばかりではなく、働くことの大変さを気付

いてもらうことだと思うが、職場体験と就職が結びついていないといった意見があった。
親の職場を自分の子どもに見せるという体験も面白いのではないかと個人的に思う。

【沖畑教育長】おっしゃられるように就職に結びつけることが目的ではないが、親の職場に行つてということも、中にはやっている学校もある。色々と検討していきたい。

【委員 F】「ひだプラス」の周知がまだまだ不十分であり、今後取り組んでいきたいと考えている。

【委員 G】移住者が意外に若い方が来られていると知り驚いた。お試し移住は実施されているか。

【都竹市長】以前はやっていたが、あまり効果が無く現在は実施していない。

【委員 G】高山市は民泊が増えており、知らない間にできていたということも聞く。飛騨市での状況とインバウンドの取組みをお聞きしたい。また、外国人に対する医療機関の受診体制なども今後整備が必要かと思われるがお考えをお聞きしたい。

中学校の部活動で人数が少ない部があり、来年廃部かどうかという話の中、他の中学校と合同になるかもという話もある。具体的にそういった話があるのかお伺いしたい。

【委員 H】飛騨市は外からみると非常に魅力的な資源があり、全国の方々に知られていないことがもったいない。対外的にアピールし、観光に結びつけられるようもっと何かできないか。

「さくら」や「君の名は。」でPRされたと思うが、今後のPRが大きなポイントとなるのでは。また、可児市では、山城跡が多く埋もれていた中で、資源の掘り起こしを行い、今年、山城サミットが開催されるまでになった。可児市全体が知名度アップの策を打っている。飛騨市の方が素晴らしい資源が多いと思うのでしっかりPRできれば。

また、高山市では、高齢者に対する温泉の補助券があるが、高山市内の温泉施設でしか使用できない。飛騨市でも使えればといった意見もあり、高山市に言うべきことかもしれないが、お互いの垣根が無くなるとよい。

【委員 I】一つ目は、子ども達を狙った凶悪犯罪が多く、要因として自立出来ない社会性の弱さと、障がいの有無に関係なく安心して暮らせる共生社会の構築の弱さがあるように思う。その中で「ひきこもり」を例にあげると、本来、一家の大黒柱である40代～50代の方がひきこもりになり、80代の親が面倒を見ているという家庭も全国的に多いと耳にする。一方で、子ども達自身にとっても「不登校」という問題があり、全国的にも学年が上がるにつれて増えている。要因は様々だが、長期化すると成人のひきこもりに繋がり、孤独感やネガティブな感情に繋がり犯罪に繋がるが多くなることに危機感を覚える。打開策として、飛騨市のPTA連合会では「振り返りシート」の活用を呼びかけている。これは、基本的生活習慣について自分からできる社会性を伸ばすことで、不登校の発生を抑制することに繋がると国や県の研究調査からわかってきており、約20項目の点で、家庭と学校と協力して改善していくという内容。この活動により新たな不登校の子ども達は抑制されると思うが、現状でも既に不登校の児童もいる。既に子ども担当と成人担当がサポートし、地道なケアが続けられていると聞いているが、こういった支援者や制度があることを知らない人が多いことから情報発信をお願いしたい。何かあってからでは遅く、子どもの不登校と成人のひきこもり両方のサポート強化と、社会的自立に向け安心して活動できる居場所づくりをお願いしたい。

二点目は、組織の役員を決める際に断られることが多く、理由は仕事が多いが、それは誰もが同じ状況。私自身は様々なチャンスと捉えているが、そういった方ばかりではない。区やPTAなど大きな組織の役員に着いた場合、その方が勤める企業が快く送り出せるようなメリットやシステムができるとよい。

【委員 J】4年前に現職に就任した際、当事業所も人材不足が大きな課題であったが、まさに今日、市から示された総合政策指針に記載されているようなことが、私自身も取り組んできたところであり、現在は新卒採用も多く、ようやく身を結んできたところ。

森林環境譲与税について、市はこれから森林所有者の特定と経営意向調査を実施し、整備事業に入られると思う。今後も国から毎年約7,000万円が交付され、森林整備を実施していかなければならない。しかし、現在、林野庁が示している歩掛りでは、森林整備事業者には利益が出ない。現在の森林整備事業は、林野庁が事業費の算定を直接工事費で計算しており、事務所職員の一般経費は計算されていない。この赤字部分は、独自に木材を売った利益や、線下の刈り払い等を請け負い、トータルで利益を生み出すようにしている。ここで、森林環境譲与税により森林整備事業が多くなると、どんどん利益が減り欠損になる可能性もある。県内のほとんどが同じような状況である。

このままでは森林整備事業を受けられず、せっかくの森林環境譲与税を活用して地域の山を守っていくことが出来ない。このことから、市発注の事業について、市独自の歩掛りで発注されることが望ましい。県の林政部や森林公社、国への働きかけを行っているが、市の対応もご検討いただきたい。

【会長】多くの意見をいただき、感謝申し上げます。都竹市長から委員の意見に対して、回答を求める。

【都竹市長】様々なご意見を賜りお礼申し上げます。個別にコメントさせていただく。

委員Aのご意見。空き家対策は、なかなか特定空き家の認定までいかないケースが多い。これまでは酷くなった空き家をどうするか、また、どう予防するかという議論を進めてきたが、既に空き家になっているが手をつけられないもの、いわゆる「特定空き家予備軍」をどうするか、あまり議論できておらず、実態把握を含め取り組んでいきたい。

合区については、ケースバイケースの対応になると思っており、またご相談いただきたい。区の無いところは神岡町の中心になるが、非常に苦慮しているところ。まずは一つの町内会組織を作ってもらうところから始めている。決まった答えがないことなので、よく議論しながら進めていきたい。

委員Bのご意見。任意接種の拡充について、よく検討していきたい。接種した方とそうでない方の差が大きいものなど、効果的な予防接種についてよくご相談させていただきたい。

産業医の件については、今まで意識したことがなかったが、働き方改革の中で50人未満の事業所をどうサポートするのは大事なポイントである。相談窓口の設置が一つの解決方法かもしれないが、あるいは個別締結のようなことも来年度の一つのテーマとして検討していきたい。

JR 高山本線増便については、これまでも再三に渡り増便や北陸新幹線との乗り継ぎ改善について、飛騨地域3市1村の飛騨首長連合や県知事からも要望しているが、なかなか打開策が無い。粘り強くやっていく。

委員Cのご意見。公園のトイレの洋式化は順番に実施している。6月補正予算では、男性トイレや多目的トイレにベビーシートが無いというご指摘があり、すぐ実施できる4箇所は実施している。都市公園で大きいところになるとトイレの改修に大きなお金がかかるため、できるだけ国や県の補助金を活用し市の負担を減らしたいが、なかなか採択されない。問題意識は持っており取り組んでいるところだが、国の補助の関係で遅れている状況。利用率の高いところから実施している。

オムツ処分に係るゴミ袋の件は、最近別の方からもご意見をいただいたところであり検討を進めている。小さいお子さんもそうだが、介護用オムツを使われる世帯への支援も検討しており、ゴミ袋の配布になるのか、別の形になるかわからないが何かしらの対応を検討していきたい。ゴミ袋の値段が高いということだが、ゴミ減量の意識付け、啓発のためにこの値段に設定している。参考までに申し上げるが、ゴミ全体の量を減らすため、食べ残しを減らす取り組みと、着なくなった衣料の回収などに力を入れ始めたところ。このようにリサイクルに回すことでゴミ袋の使用枚数を減らす取り組みを実施している。

【泉原部長】委員Dのご意見。同報無線については、アナログでかなり古くなっており、個別無線機については壊れたものは予備と交換や直して使っており、今後は防災ラジオに切り替えていきたい。受信しない地域については家に個別アンテナを設置し受信できるように対応している。消防団の積載車等に付けている車載型移動系無線機は、毎月1日、15日に通信訓練をしている。市の公用車にも移動系無線機を搭載しているが、あまり使っていないのが現状であり、マニュアルも搭載しているが、職員の通信訓練も実施していきたい。不感地帯については、どこまで移動すれば繋がるかという調査を実施しており、今一度確認したい。

【都竹市長】基本的には個別対応になる。その意味では、エリア的に全然入らない箇所は無いと認識している。

【委員D】移動系無線の不感地帯がかなり多いと認識しているが。

【泉原部長】導入時の調査結果を今一度確認する。

【都竹市長】委員Eのご意見。短大・専門学校卒への就職情報発信は確かにポイントで、今まで高卒以外の情報発信が極めて弱い。企業も飛騨市を離れた人に情報を届ける手段がない。就職情報誌等で得ていることは間違いなく、その手法の一つとして、就職情報サイトへの登録という手があるが、掲載額が高く小さい企業では対応できない。WEB上にどう魅力的な情報を載せるかが重要だが、WEBは高卒というよりも、むしろ短大・専門学校や転職希望者向けに情報を出すという方向。いかに魅力的な情報を発信するかが今やっている取り組みであり、企業が自分で情報発信することを市がどうやって後押しするか、また、市独自でも発信するサイトや情報誌をやろうとしている。もっと追求していく必要

がある。

中学校の職場体験については、小中学校では多いが、高校になると無くなってしまい、実際の就職行動に結びついていない。職業観は養われるが就職情報としては役に立たないことから、中学校の職場体験は職業観の醸成が目的だと割り切った方がいい。高校生以降に対しどういう情報を提供できるかに尽きる。保護者の職場見学については市長就任後からずっとやりたいと考えている。県職員時代に実施したことがあって喜ばれる。親が働いている姿を見る機会が少ないことから、職業観を養うためにも来年実施できればと思う。

委員Fのご意見。ひだプラすは、色んな意味で試行錯誤しながら続けているが、活動はとてもいいことであるので、どんどん打って出てほしい。

委員Gのご意見。民泊の状況だが、簡易宿所ではない民泊は数として2・3件程度。街中に空き家を改修したゲストハウスが増えてきたが、これらは簡易宿所の許可を取っており、いわゆる民泊新法の流れとは違う従来の宿泊施設の形態の流れの中で動いており、飛騨市はそこを追求したい。ゲストハウスの需要が伸びており、インバウンドの受け皿になっている。補助額を大きくしたが、補助制度を年度内に見直して使ってもらいやすいようにしていきたい。

外国人で宿泊された方の医療機関の体制については、高山市でも試行錯誤しながら進んでいると理解している。飛騨市としてどういうことが出来るのか、あるいは高山市に繋ぐということも含め医師会とも色々ご相談させていただきたい。

部活は、学校を超えた合同チームの編成が間違いなく不可欠になる。現在、既に北陵中学校と神岡中学校とが合同チームを組んでいる。ロケーション的なこともあるが、もうチームスポーツが成り立たない手前まで来ている。また、社会人の活動と部活というものを重ね合わせる中で全体で活動できるようにするなど考えなくてはならない。部活については今後喫緊の課題になってくることは目に見えている状況。色んな知恵を絞っていきたい。

【沖畑教育長】合同チームについては試合でのルールの関係もある。県内どこでも起こっていることであり、少しずつルールが緩和されていることから、状況を見ながら進めている。

【都竹市長】委員Hのご意見。良さの伝え方については、いかにメディアで取り上げてもらえるかを重要視しており、メディア関係者との接点の持ち方や、話題をどう作るか、違いをどう作り出していくか、話題作りをしてパブリシティをどう獲得するか。無料であることが一番効果がある。

「君の名は。」については、ブームは一過性のものであると認識しているが、こういったことにより地域の実力は確実に上がる。これが対策だと思っている。全体の認知度を高める一つのツールとして使うだけであり、次の新しいツールを仕掛けるかが重要。ロケツーリズムといって新しい作品に取り上げてもらえるよう取り組んでいる。

可児の山城の件は、飛騨市も山城の取り組みを着々と実施しており、観光資源であると同時に文化財であることから、国指定に向け4年間かけて学術調査を実施している。昨

年、古川城では素晴らしい発見があり、どこに手を入れていくかを先生方の指導を仰ぎながら次に進んでいる。

高齢者向け温泉補助券、飛騨市で言うと「いきいき券」だが、こういったものを市外で活用しようと思うとなかなか難しいところがあり、自治体それぞれに自分の町の中で使うことが前提とされている。温泉だけに特化して3市1村で連携することは考えられる。首長連合でも意見交換していきたい。

委員Iのご意見。不登校・ひきこもりの一貫した支援について、まさしく発達支援センターで力を入れているところであり、教員のOBの方に学校を卒業したあとでも安心して過ごせる居場所作りとして「ふりーすぺーす」という事業を実施しており、どんどん拡充しているところ。学校の先生の強い問題意識から実現したものであり、30代、40代の方も参加できるようになっている。もっと追求していきたいと考えている。

区やPTA役員のメリットシステムについては、消防団がまさしく県をあげて実施されている。検討していきたい。

委員Jのご意見。森林環境譲与税については、まずはどういう状況になっているのか確認する。やればやるほど赤字になったのでは何のための譲与税かわからなくなる。よく研究し、国に対しても市や飛騨首長連合、県市長会等から要望できるようにしたい。まずはこういった制約があるのかよく研究する。

【御手洗理事】本日欠席の委員Kより意見を預かっており、ここでご紹介させていただく。

『決算額、予算額について外から財源を獲得する努力が見られる。地方創生関連交付金事業は、KPIが未達の部分について今後も努力を。移住定住事業は、市の人口を増やす大事な事業。市の魅力を理解し推進してほしい。宇宙最先端科学パーク構想の推進については、科学者にとって魅力あるまちになるよう情報発信を工夫し、市民が誇りを持てるまちになるよう進めてほしい。子育て環境では、子どもを預かる手段の充実が親にとって心強いもの。この分野の更なる推進と、あわせて事業主への理解促進も進めてほしい。ふるさと教育はよい取り組みであり、子ども達が大きくなったとき、ふるさとを盛り上げていってもらえるとよい。魅力ある高校づくりでは、YCKの発表や市長の教育現場での話を聞き、高校生はすごいと感じた。近隣市町村からも魅力ある高校であると認識されてきていると思う。市長のふれあいトーク、市政ゼミナールなど積極的に市民に語りかける姿勢が、市政を自分ゴトのように考えるようになったと感じる。最後に飛騨市学園構想について進捗状況を知りたい。』

【沖畑教育長】飛騨市学園構想の進捗状況についてお答えする。今年度、検討会議を立ち上げ、月1回議論を行っている。構成は、保小中高の教員代表、各校区の地域代表、行政の各部門。どんな子ども達を育てたいか、どんな未来の飛騨市を描いているか等について、皆が同じイメージを持ち、そのイメージのために何をするべきかについて議論を深め、皆で飛騨市の子ども達を育てていこうと進めている。9月27日の午前に「未来会議」と題し、検討委員以外の皆様にも参加いただいて、子ども達の未来像と自分達に何が出来るのかを考える会を持ちたいと考えている。ぜひご参加いただきたい。

【会長】現場から見えてくる課題の中で色んなアイデアが出てきて、さすがだと感じた。飛騨市学園構想のようにビジョンを皆が共有することは大事である。総合政策指針についても、目指す将来像を皆が思い描くことができるようなことが見えてくるとよい。

6. その他

今後のスケジュールについて

【土田係長より説明】

7. 閉会【沖畑教育長】

長時間に渡り、ご審議いただき、感謝申し上げます。大変参考になるご意見を多数いただいた。次回の審議会では、ご意見に対する進展をお話できればと思う。以上をもって第1回飛騨市総合政策審議会を終了する。